

今回は我家の個人的な事柄です。偶には良いでしょう。ご容赦を！
尚、東京では木枯らし一号らしい。

昨日は、下の孫娘の七五三のお祝いを実施した。朝早く起き出して美容院に行って着付け、婿を迎えに行き写真撮影が終わった頃には既に日は中天にあった。生憎の天候であったので、御宮参りはキャンセルせざるを得なかった。帰宅してからは入れ代わり立ち代りの御定まりの写真撮影。上の孫と違って窮屈な着物を早く脱いで楽になりたい孫をなだめすかして原宿のレストランでのお祝い会となった次第である。



ウィキペディアによれば、七五三は元来は関東圏における地方風俗である由。男の子は3歳と5歳、女の子は3歳と7歳の歳の11月15日に成長を祝って神社などに詣でる。本来は旧暦、収穫が終わった11月の、二十八宿の鬼宿日であり何事にも吉であるとされている15日に行われていたが、現在では新暦の11月にそれも15日に拘らず月内の土日に行くことが多くなっている。我が孫達もその例に漏れないが。

3歳は、髪を伸ばす「髪置き(かみおき)」、5歳は初めて袴をつける「袴着(はかまぎ)」、7歳はそれまでの紐付の着物に代わって、本仕立ての着物と丸帯と言う大人の装いをする「帯解(おびとき)・紐落(ひもおとし)」の名残である。孫も初めて本格的な化粧をして貰って幾分大人びたかなと言う感じがしないでもなかった。男児を女児よりも早く祝うのは男児の生存率が低かったからのようだ。そう言えば、最近の報道によれば男児の出生率が特に首都圏では低下しているらしい。

近所の親しくさせて貰っている夫婦は茨城県出身らしいが、茨城では七五三は結婚式と同じ位に大々的にお祝いするのだそうだ。

七五三に関連するものとして、十三詣りがある。旧暦の3月13日(現在では月遅れで新暦の4月13日)に、13歳の少年や少女が、福德および知恵を授かるため、虚空蔵菩薩に参詣する行事。一名、知恵詣り、または、智恵もらい。当日、境内で13品の菓子を買ひ、虚空蔵菩薩に供えた後、家に持ち帰って家中の者に食べさせる風習もある。

空海がそれによって飛躍的に記憶力を増大させたと言われる虚空蔵求聞持法に由来する。また、13歳という年齢が元服の時期と合致するため、一種の通過儀礼として伝承された。京都嵐山の法輪寺が有名である。参詣の帰路、後ろを振り返ると、せっかく授かった智恵を返さなければならないという伝承があつて、渡月橋を渡り終わるまで、後ろを振り向いてはいけないとされる。(以上ウィキペディアから引用)

今から、二人の孫達はそれを楽しみにしている。状況によっては孫三人のお祝いをする事になるかもしれない。

息子夫婦に子供が出来たようだ。さる11月5日には戌帯のお祝いを実施した。帯祝は懐妊後初めてのお祝い事であり妊娠5ヶ月目に入ると胎児が順調に發育し、流産の心配も少なくなる。お産の軽い犬にあやかり、無事の出産を祈って妊婦に腹帯を送る慣わしが帯祝

である。さる 5 日は極めて目出度い日だったようだ。戌年、戌の日、大安、そして日曜日と全てが合致した 84 年に一回の吉日であった。さぞかし安産で可愛い孫が生まれることだろう。願わくば嫁に怒られるかもしれないが男の子供が欲しい、それがまた田舎の我が父の願いでもある。

美奈の七五三の祝の宴に際して

「賀解帯儀」

「眷 属 集 美 七 歳 姫

粧 点 楚 々 菊 香 移

雖 身 早 産 英 康 健

満 座 何 疑 千 里 馳」